

1.4 感染症対策事業

〔現況及び施策の方向〕

最近の感染症を取り巻く状況では、ノロウイルス等の感染性胃腸炎や腸管出血性大腸菌O157による集団感染が発生している。平成21年4月にはメキシコに端を発したインフルエンザ(H1N1)2009が発生し全世界的な流行を起こした。また、東南アジアを中心に鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトへの感染例(死亡例を含む。)は、依然として発生している。

平成24年5月11日、国では新型インフルエンザ及び全国かつ急速なまん延の恐れがある新型感染症への対策の強化のため、国民の生命及び健康を保護し、国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小となる対策を盛り込んだ新型インフルエンザ等対策特別措置法を公布した。なお、この法律は、中国における鳥インフルエンザ(H7N9)のヒトへの感染拡大を受け、ヒトからヒトへ持続的に感染し、新型インフルエンザに変化する可能性も踏まえて、平成25年4月13日に繰り上げて施行された。

一方、結核の状況については、患者数は減少傾向を続けてきたが、近年、その傾向が鈍化し、あわせて、潜在性結核感染症が増加している状況にある。高齢者などハイリスクグループの罹患や多剤耐性結核菌の出現等、新たな課題も発生している。このため、ハイリスクグループに重点を置いた健康診断の実施や、治療成功率を向上させるためのDOTS(直接服薬確認療法)の推進など重点的かつきめ細かな結核対策を推進する。

また、エイズ患者、HIV感染者の新規報告者数は、本県においても増加傾向にある。抗HIV薬の進歩によりエイズが予後不良の疾患から慢性疾患へと移行しつつあるが、HIV感染の拡大防止のため啓発活動への取組を強化し、エイズ患者の長期療養に対する支援など、効果的なエイズ対策を推進する。

本県では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年10月2日法律第114号)に基づき、検疫所、医療機関等関係機関と連携するとともに、感染症情報センターを設置し、感染症等の実態把握及び普及啓発を行うことにより、効果的な感染症予防対策を推進している。

感染症の集団発生時には、広島県感染症危機管理マニュアル(平成14年4月策定)に基づき、患者に対する医療の提供及びまん延を防止するよう対策を講じるとともに、新型インフルエンザ及び急速にまん延する恐れのある新感染症に関しては、「新型インフルエンザ等対策行動計画」等に基づき、的確な対応を行う。

〔事業の内容〕

1 感染症予防対策

(1) 感染症・疾病管理センター事業(予算額 8,559千円)

平成25年4月1日に設置した広島県感染症・疾病管理センターの各種事業及び運営を行う。(平成25年度創設)

(2) 感染症予防対策事業(予算額 70,574千円)

ア 感染症対策事業

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、感染症に対する正しい知識の普及啓発、感染症診査協議会の設置及び感染症の患者に対する良質かつ適正な医療の提供等を推

進する。(平成 11 年度創設)

イ 感染症発生動向調査事業

コンピューターオンラインを活用して、医療機関・保健所・県による発生動向調査を実施し、結核発生状況の把握、感染症発生状況の把握、解析と流行予測を行い、効果的な予防対策を推進する。

(昭和 61 年度創設)

ウ 防疫体制整備事業

保健所等の防疫にかかる活動体制、検査体制、研修体制の機能強化を図る。(平成 9 年度創設)

(3) 新型インフルエンザ対策事業 (予算額 236,840 千円)

新型インフルエンザの感染拡大を可能な限り抑制するとともに、重症患者への適切な医療を確保し、健康被害を最小限にとどめることなどを目的に、新型インフルエンザ対策の更なる推進を図るための諸施策を実施する。(平成 18 年度創設)

(4) 予防接種の推進 (予算額 43,341 千円)

予防接種法(昭和 23 年法律第 68 号)に基づいた適切な予防接種の普及啓発を図るとともに、市町域を超えた広域予防接種を推進する。

また、予防接種法に基づく健康被害について救済給付を行う。

(5) ハンセン病対策 (予算額 2,289 千円)

ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発を図るとともに、専門医による在宅患者の検診、療養所入所者に対する訪問、里帰り・社会復帰支援、郷土産品の送付を実施する。(昭和 38 年度創設)

第 1 表 一類～三類感染症患者発生状況

(単位 人)

	平成 25 年		平成 24 年		平成 23 年	
	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0
	南米出血熱 ※1	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0
二類 ※3	急性灰白髄炎	0	1	0	1	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群※2	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1) ※4	0	0	0	0	0
三類	コレラ ※2	1	4	0	3	0
	細菌性赤痢 ※2	2	143	2	213	11
	腸管出血性大腸菌感染症	64	4,044	74	3,755	72
	腸チフス ※2	2	65	0	36	1
	パラチフス ※2	1	50	0	24	0

(注) 1 広島市、呉市、福山市を含む。

2 患者数は概数値である。(無症状病原体保有者含む。)

3 ※1:平成 19 年 4 月 1 日から届出対象 ※2:平成 19 年 4 月 1 日から類型変更 ※3:結核を除く。

※4:平成 20 年 5 月 12 日から二類感染症

2 結核予防対策

(1) 予防活動 (予算額 14,251 千円)

患者接触者に対する健康診断を実施することにより患者の早期発見に努めるとともに、結核患者に対する良質かつ適正な医療の提供等を推進する。(昭和26年度創設)

第2表 結核患者等の登録状況

(単位 人)

区 分		活 動 性 肺 結 核			活 動 性 肺外結核	不活動性 そ の 他	計
		登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性	登 録 時 其 他 の 結 核 菌 陽 性	登 録 時 菌 陰 性 ・ 其 他			
新登録患者	平成25年	151	79	29	91	—	350
	平成24年	175	88	40	108	—	411
	平成23年	162	94	55	123	—	434
登 録 患 者	平成25年	120	72	21	69	600	882
	平成24年	98	60	34	72	705	969
	平成23年	124	64	30	98	698	1,014

- (注) 1 広島市, 呉市, 福山市を含む。
 2 登録患者は, 各年末現在の数である。
 3 平成25年は, 速報値である。

第3表 健康診断, 管理検診実施状況

(単位 人, %)

区 分		対 象 人 員	実 施 人 員	受 診 率
平成25年度	接 触 者 健 診	1,156	957	82.8
	集 団 健 診	97	96	99.0
	管 理 健 診	414	331	80.0
平成24年度	接 触 者 健 診	1,099	952	86.6
	集 団 健 診	296	296	100.0
	管 理 健 診	419	369	88.1
平成23年度	接 触 者 健 診	1,339	1,262	94.2
	集 団 健 診	66	66	100.0
	管 理 健 診	310	289	93.2

- (注) 1 広島市, 呉市, 福山市を除く。
 2 平成25年は, 速報値である。

(2) 結核患者医療費の給付 (予算額 24,037千円)

結核患者に対して医療費公費負担を行い, 適正医療の確保を図る。(昭和26年度創設)

第4表 結核医療費公費負担実施状況

(単位 人, 千円)

区 分		対 象 人 員	公 費 負 担 額
平成25年度	一 般 患 者 (37条の2)	1,315	1,901
	入 院 患 者 (37条)	260	18,051
	計	1,575	19,952
平成24年度	一 般 患 者 (37条の2)	1,459	1,953
	入 院 患 者 (37条)	190	11,740
	計	1,649	13,693
平成23年度	一 般 患 者 (37条の2)	1,963	3,085
	入 院 患 者 (37条)	179	10,808
	計	2,142	13,893

(注) 広島市, 呉市, 福山市を除く。

(3) 結核対策特別促進等事業 (予算額 11,586千円)

結核予防思想の普及啓発, 直接服薬確認療法(DOTS)の推進など地域の実情に配慮したきめ細かな結核対策特別促進事業(昭和61年度創設)を実施するとともに, 事業者等が実施した健康診断の費用

を補助するなど結核予防対策を推進する。(昭和 49 年度創設)

3 エイズ予防対策

(1) 推進体制等の整備 (予算額 155 千円)

行政機関の連携を強化するとともに、経済界、マスコミ等広く関係団体の協力を得て、県民総ぐるみとなったエイズ対策を推進する。

また、予防の徹底と患者・感染者に対する差別や偏見を生まない状況を醸成するため、各種普及啓発資料を活用するとともに、講演会や研修会を通じて正しい知識の普及を図る。(昭和 62 年度創設)

(2) 相談体制の充実 (予算額 2,039 千円)

患者・感染者をはじめ広く県民を対象として、各保健所において、カウンセリングによる相談支援体制を確立している。(平成 4 年度創設)

また、保健所職員等に対する研修会などを実施する。

- ・ 広島県エイズホットライン

日 時：毎週土、日曜日 (ただし、第 1 土曜日を除く。) 9 : 00 ~ 16 : 00

電話番号：(082)242-0812

(3) 検査体制の充実 (予算額 2,505 千円)

各保健所等において、プライバシーに配慮した検査 (匿名、無料) 体制を確立し、二次感染防止を図る。(平成 5 年度創設)

- ・ 無料 HIV 抗体検査

日 時：平日 (実施機関で異なるため事前に問い合わせが必要。)

場 所：各保健所 (支所)、保健センター

- ・ 広島県エイズ日曜検査

日 時：毎月第 2、第 4 日曜日、6 月第 1 日曜日 (要予約) 13 : 00 ~ 16 : 00

場 所：県立広島病院内 (広島市南区宇品神田一丁目 5-54)

予約電話：(082) 242-0812

受付時間：毎週土、日曜日 (ただし、第 1 土曜日を除く。) 9 : 00 ~ 16 : 00

- ・ 広島市エイズ夜間検査

日 時：毎週月曜日 (ただし、休日、祝日を除く。要予約) 18 : 00 ~ 20 : 00

場 所：広島市中保健センター (広島市中区大手町四丁目 1-1)

予約電話：(082) 504-2528

受付時間：月～金曜日 (ただし、休日、祝日を除く。) 8 : 30 ~ 17 : 15

(4) 医療体制の充実 (予算額 51,380 千円)

医療機関との連携を強化し、患者・感染者が安心して適切な医療を受けることができる体制を確立する。(昭和 62 年度創設)

抗 HIV 薬の進歩によりエイズが予後不良の疾患から慢性疾患へと移行しつつあることから、エイズ

患者の長期療養支援及び緩和ケアなどを取り入れた，エイズ治療中核拠点病院，エイズ治療拠点病院及びエイズ受療協力医療機関による連絡協議会及び医師研修会を開催する。また，中国・四国ブロック拠点病院による研修事業，調査研究事業等により中国・四国ブロックのエイズ医療水準の向上を図る。

第5表 エイズ患者・感染者数

(単位 人)

区 分		患 者	感 染 者	計
広島県	平成 25 年	15	21	36
	平成 24 年	14	10	24
	累 計	91	188	279
全国累計		7,188	15,783	22,971

(注) 1 血液凝固因子製剤によるものを除く。
2 平成 25 年，全国累計は速報値

4 【新】風しん抗体検査事業（予算額 10,542 千円）

効果的な予防接種の実施により，風しんの感染予防やまん延を防止し，先天性風しん症候群の予防を図ることを目的とし，風しん感受性者を効率的に抽出するため，妊娠を希望する女性等に対する風しん抗体検査を実施する医療機関に対しその費用を補助する。（平成 26 年度創設）